

研究活動報告

2020年度 安倍フェローシップ・グローバルフォーラム 「コロナ時代のワーク・ライフ・バランス：日米はこの困難に立ち向かうことができるのか？」

2020年10月27日、国際交流基金日米センターならびに米国社会科学研究所評議会（SSRC）主催によるフォーラム “Work-Life Balance in the COVID Age: Can the United States and Japan Meet the Challenges?”（「コロナ時代のワーク・ライフ・バランス：日米はこの困難に立ち向かうことができるのか？」）が開催された。本事業は、主催団体が実施する研究奨学制度である安倍フェローシップの研究成果を広く紹介する公開イベント「安倍フェローシップ・グローバルフォーラム」の一環として行われた。同フォーラムは、平成29（2017）年度より毎年、米国各地で開催されてきたが、今年度はコロナによるパンデミックの影響により、初めてオンラインで実施された。

本フォーラムでは、過去10年間の男女共同参画の努力で得られた成果を振り返ると共に、日米両国が直面している課題、教育・婚姻状況・職業・人種の違いによるパンデミックの影響の違いについて、安倍フェローによる報告及び議論が行われた。

本研究所からは、福田節也・企画部第2室長（2013年安倍フェロー）がパネリストとして登壇し、“The Legacy of “Womenomics” in the Sphere of Gender Equality in Female Employment and Fertility（女性就業と出生率における「ウイメノミクス」の遺産）”と題する報告を行い、安倍政権によるウイメノミクスの成果と課題について論じた。これに続き、大沢真知子・日本女子大学教授（1992年安倍フェロー）から“The Pandemic Paradigm Shift on Gender, Employment and Work-life Balance in Japan（「日本のジェンダー、就業、ワークライフバランスにおけるパンデミックシフト」）”と題する報告があり、感染拡大が日本における男女の雇用やワーク・ライフ・バランスにもたらす影響について論じられた。その後、ブリジット・シュルト（Brigid Schulte）・ニューアメリカ財団ディレクター（2017年安倍ジャーナリスト・フェロー）より、コロナ時代における仕事と家庭における人種・階層・ジェンダー間の公正の問題について、米国の状況に関する報告があった（“Work-Family Justice in the Age of COVID: Meeting the Challenges of Equity across Race, Class and Gender”）。各報告の後に、1）テレワークの限界、特に日米における様々な社会経済的その他の分断による影響の差は何か？ 2）2021年にこの課題に対処するために政府が最も優先すべき政策は何であるか？ といったテーマやフロアからの質疑応答に基づく議論が行われた。当日は150名ほどの参加があり、活発な議論が展開された。今般のコロナ・パンデミックがジェンダーや社会的格差にどのような影響を与えているのかを考える貴重な機会となった。

本フォーラムの概要については、URL：<https://www.jpfr.go.jp/cgp/fellow/abe/news/symposium201027.html> で参照できる他、後日 YouTube でフォーラムの動画（英語および日本語の字幕が付く予定）も公開される予定である。（福田節也 記）

米国老年学会2020（オンライン開催）

米国老年学会（The Gerontological Society of America）は、2020年研究発表大会（The GSA 2020 Annual Scientific Meeting Online）をオンラインで開催した。この学会は、例年4,000人近く